

信じることを大切にしながら

私には、中学生の娘がいます。

気は早いですが、娘が私に「会わせたい人がいる。」と言って、誰かを連れてくる日のことが気になって仕方ありません。

もし、そんな日が来た時には、親としてどのような態度をとったらいいのか・・・私は今から思い悩んでいます。

学習の事例から

そんな時、娘が学校で結婚差別について学習してきました。

学習の事例は、ヒサ子さん（仮名）が、「同和地区出身の交際相手との結婚」を両親に話したところ、反対を受けたというものでした。

ヒサさんは言います。

「お祝いしてくれると思ってた親から反対された時はショックでした。本人の性格や態度で反対されるなら分かりますが、同和地区の人ということで反対されていることがいやでした。せめて自分の両親からは祝福

されて結婚したかったので説得を続けました。」

娘に問われて

学習では、この事例を通して、「結婚差別とは何か」「なぜ親は差別（反対）するのか」「結婚差別に出会った時にどうしたらいいか」について、みんなで考えたいです。

そして、その時に思ったことを娘は私に教えてくれました。

「差別された方も、差別する方も苦しむのが結婚差別だと思う。『親も差別はしてはいけない』と分かっているけど、親戚の集まりに行けなくなるとか、社会に差別があるから流されてしまう。」

だから、一人ひとりが考え方を変えて、社会から差別をなくしていくことが大切だと思う。

もし、自分が結婚差別に出会ったら、差別に負けないう心を持って相手を説得したい。

そして、『社会から差別をなくしていけるように行動したい。』と話したよ。」

「もし、私のことだったら、お父さんは反対しないよね？」

ことだと確信しています。

5年後なのか10年後なのかは定かではありませんが、本当に娘が相手を連れてきた時に、迷うことなくお祝いの言葉をかけることができる人間になりたいと、今の私は思っています。

正直に言うと、考えれば考えるほどに、娘が本当に結婚したような気分になり、寂しさが募ってしまいます。でも、「人間を信じ、未来を信じることを大切にしながら、これから生活していくことを考えたいです。」

自分をふりかえって

このことをきっかけに、私は改めて自分自身をふりかえってみました。

そして、その中で気づくことができたのが、私が陥った差別的な考え方は、自分の都合を優先し、相手の意思を否定するものであるということです。

だからこそ、これから私は、信じることを大切にしなければならぬと考えています。

娘を信じること・・・。

娘が大切に思うパートナーを信じること・・・。

そして、娘が学習した「一人ひとりが考え方を変えて、社会から差別をなくしていくこと」を信じ、その実現に向けて努力していくことが、私がこれから成すべき

